

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—4647

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 60 R 1/06

識別記号

庁内整理番号  
7443—3D

⑭ 公開 昭和58年(1983)1月11日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑮ 自動車用アウトサイドミラー

⑯ 発明者 村木俊夫

深川市1条13番12号

⑰ 特 願 昭56—104278

⑰ 出 願 人 村木俊夫

⑱ 出 願 昭56(1981)7月1日

深川市1条13番12号

明 細 書

1. 発明の名称 自動車用アウトサイドミラー
2. 特許請求の範囲
  - 1 鏡体(1)と傾倒鏡(2)を設けた、自動車用アウトサイドミラー。
  - 2 鏡体(1)の下部個所面を折曲し、傾倒鏡(2)として一体に形成した、特許請求の範囲第1項記載の自動車用アウトサイドミラー。
  - 3 別体の傾倒鏡(2)と鏡体(1)を中枠部(4)で持着し取り付けた、特許請求の範囲第1項記載の自動車用アウトサイドミラー。
  - 4 別体の傾倒鏡(2)の保持カバー(3)と、鏡体(1)の保持カバー(3)を球関節継手(5)を介在し取り付けた、特許請求の範囲第1項記載の自動車用アウトサイドミラー。
3. 発明の詳細な説明

従来、自動車のアウトサイドミラーは、1個で一方向の写視のみであり、車種によっては必要に応じて他方向をも視認するために、複数個のミラーを装備しなければならない、特に死角範囲の多い

大型車では、車の側下方等の視認のため複数のミラー装備によつて、前方周辺の視界がミラー群の陰になり、見通しの妨げにも成るわけである。

本発明は、上記のような欠点を除き、1個のミラーで車の片側位置の後方と共に側下方や前輪付近等の写視を可能にすることを目的としたもので、ミラーの装備個数を減少させ視界の拡大を図つたものである。また、基準既設のミラーと交換することによつて、どんな車種でも複数方向の写視が得られるわけである。

即ち、1個のミラー内に複数方面に向け、異なつた角度で複数枚の鏡を併設したことを特徴とした、自動車用アウトサイドミラーである。

図面を参照しながら、本発明の実施例について説明する。

第1実施例については、第1図、及び第2図で示すように、鏡の製造工程時において鏡体1の下部で適宜個所面を、適度の角度をつけ背面に向け折曲して、一体に形成した傾倒鏡2とし、鏡縁周囲を保持カバー3で持着する。

なお、鏡体1の下部で適宜個所面、及び適度の折曲角度については、運転席からミラーを通して鏡体1面では後方を、また、傾倒鏡2面では側下方や前輪付近等が写るように、写視可能な範囲の形状とする。

なお、傾倒鏡2は、鏡体1の下部個所のみに限定せず、鏡体1の上部個所を前方に向け折曲し、俯き状態にすることも任意である、また、鏡体1と傾倒鏡2との境に着色ラインを施して区別すれば視認場所の感覚にも役立つことになる。

つぎは、第2実施例であるが、第3図、及び第4図で示すように、鏡体1及び傾倒鏡2は、それぞれ別体に形成し、鏡体1の下側に背面に向け適度の傾斜をつけた状態に傾倒鏡2を中幹部4で鏡体1と共に持着し、さらに保持カバー3で、それぞれの鏡縁周囲を持着する、傾斜の勾配については、傾倒鏡2面で側下方や前輪付近等の写視可能な角度とする。

なお、別体の傾倒鏡2は、鏡体1の上側に前方に向け俯き状態に設けることも任意である。

けることも任意である。

上述のとおり、実施例について説明したところであるが、第1図より第6図までの全図面は、自動車の左側設置用のアウトサイドミラーを示したもので、右側設置用については本図面と対称になるものである。

第1実施例、及び第2実施例のように、鏡体1と傾倒鏡2を一体の保持カバー3で持着併設したミラーは、特にボディーのスタイルを配慮しなければならぬ乗用車には最適である。

即ち、従来の既設ミラーとのサイズも大差がなく、また、保持カバー3を流線型のスタイル等に構成することも容易である、この傾倒鏡2面のあるミラーで、車の側下方や前輪付近をも同時に写視できるため、走行中での通行帯や路肩等の状況を素早く判断することができるので、運転操作上において非常に効果的な、利点のあるアウトサイドミラーなのである。

第3実施例は、傾倒鏡2が方向角度を自由に調整できる球関節継手5により吊設されているので、

つぎは、第3実施例であるが、第5図、及び第6図で示すように、それぞれ別体の鏡体1を保持カバー3<sup>1</sup>で持着し、また、傾倒鏡2を保持カバー3<sup>2</sup>で持着する、その鏡体1の保持カバー3<sup>1</sup>の下面と、傾倒鏡2の保持カバー3<sup>2</sup>の上面とを、方向角度の変動自在な球関節継手5を介在して取り付け、傾倒鏡2を吊設する。

このようにして併設された傾倒鏡2は、まず鏡体1面の写面角度を、鏡体1の保持カバー3<sup>1</sup>の背面に、取付杆6との間に介在する球関節継手5<sup>1</sup>を動かし調整位置決めをし、つぎに吊設した傾倒鏡2面を、傾倒鏡2の保持カバー3<sup>2</sup>と、鏡体1の保持カバー3<sup>1</sup>との間に介在した球関節継手5を動かし写面角度を調整して、車の側下方等で好みの写面位置に保たせるのである。

なお、この球関節<sup>継手</sup>5付の傾倒鏡2は、鏡体1の上面、及び側面等に吊設することも任意であり、また、介在する球関節継手5、5<sup>1</sup>についてであるが、球関節継手によらず方向角度が自在に調整可能で定めた角度位置で保たせられる他の継手を設

車種を選ばずミラーの設置場所に応じて、写面角度が決められることを特徴としてある、また、球関節継手5付きの傾倒鏡2を鏡体1の上面や側面等にも複数に吊設することにより、大型車での左折時の死角を排除すると共に、車側周辺の写視範囲が一層拡大され、安全運転の走行に効力を発揮するものであり、交通事故防止対策の一環として、非常に有効な自動車用アウトサイドミラーである。

#### 4. 図面の簡単な説明

この発明の第1実施例を示す第1図は斜断面図、第2図は側断面図

この発明の第2実施例を示す第3図は斜断面図、第4図は一部断面して示す側面図

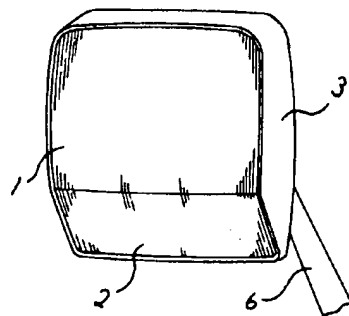
この発明の第3実施例を示す第5図は斜断面図、第6図は側面図

1…鏡体 2…傾倒鏡 4…中幹部

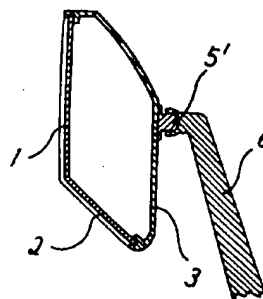
5、5<sup>1</sup>…球関節継手

特許出願人 村 木 俊 夫

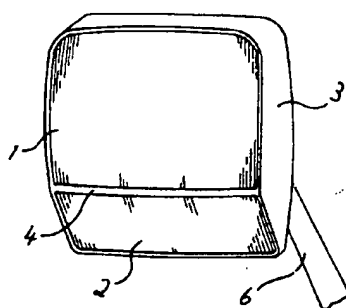
才1図



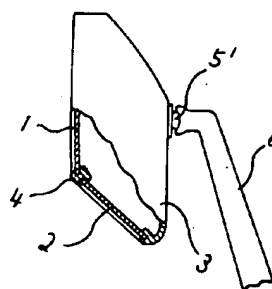
才2図



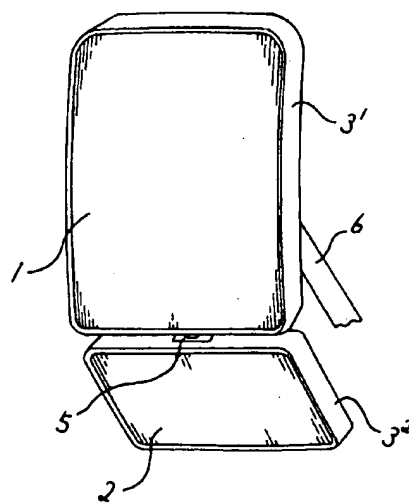
才3図



才4図



才5図



才6図

